

【別紙様式Ⅰ】 令和5年度 学校評価報告書

学校名 睦合中 学校

厚木市教育委員会の基本目標	1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】 2 自他の命や豊かな感性を大切にし、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】
---------------	---

校長名 津田 敏行

学校教育目標

学校経営の方針

「未来を拓き とともに支え歩む生徒の育成」
～学ぶ力、拓く力、つなぐ力～の育成

- (1)防災・生活・交通安全教育の充実を図り、安心・安全な教育環境を構築する
- (2)教育活動全般を通して豊かな人間関係を育む心の教育を充実させる
- (3)生徒の活動の場を充実させ、自主性を伸ばし将来豊かな自己実現につなげる
- (4)基礎学力の定着と確かな学力の向上をめざし、授業改善・工夫を図る
- (5)教職員相互の連携と共通理解のもとチーム力を生かした指導体制を確立する
- (6)家庭・地域との連携を深め、開かれた学校を推進する
- (7)ESD教育の実践を通して持続可能な社会性を育む

今年度の重点目標

- (1)わかる・できる授業の展開による基礎学力の定着と学力向上(学力向上推進部)
- (2)生徒の力で創り上げる学校生活の実現(自治力育成部)
- (3)将来を見据え、よりよい社会を築いていく力を育成(生き方教育部)
- (4)よりよい自分づくり、生活しやすい学校づくりのための生活指導、生徒支援の充実(生徒指導支援部)
- (5)日常の教育活動や地域行事等での家庭、地域連携の構築
- (6)ESD(持続可能な開発のための教育)の展開

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
教科指導の充実	1	・相互授業参観 ・小中連携事業	・相互授業参観を通してよりよい授業づくりの意見交換等ができ、参考となることもあったが、システムの年間を通して行えなかったことが課題として残る。 ・小中連携は、相互の参観、研究協議を行ない、教科指導の状況を理解することができた。しかし、限られた日数、時間であるため系統的な連携的システムまでは構築できていない。	その場限りの取組ではなく、相互授業参観、小中連携において、深めたい観点、内容を示して具体的かつすぐにでもできる研究会、事業となるように推進できたらと考える。授業参観については、教育計画の中に夏季休業を中心に年間を通して研究を充実させていきたい。
学力向上	1	アフタースクール 試験前補習、昼休み補習	アフタースクールは毎月1回、放課後に設定したが、参加率が低いため定着できなかったのが現状である。参加者については有効であったと考える。昼休みの補習は、学カステップアップ支援員の協力もあり、特に試験前には参加者も多かった。	アフタースクールは、いったん休止として試験前の補習、昼休み補習への参加者を増やす働きかけを行っていく。基礎学力が身につけていない生徒へは計画的参加を示していく。

学級経営	2	学級組織の充実	今年度も全校同一の組織として、各係が専門委員会に直結する仕組みとなっているため、生徒会活動が機能的となっている。クラスの独自性は低い が、全般的に充実していたと考える	各係の充実や生徒への責任感の醸成において学級組織は非常に大切なこととして捉え、年度初めに一人一人を生かす学級経営の共通理解のもと進めていく。職員会議においても年間を通して確認をしていく。
生徒会活動の充実	2	①生徒会活動の充実 (専門委員会、生徒総会) ②生徒の力による学校づくり 本校独自の「4本柱」の実践	・生徒総会は今年度もリモートでの実施にしたが、対面での温度は感じられないにしても、目的は十分に達成できた。そして各委員会活動も充実した取組が見られた。 ・本校伝統の4本柱は当初創り上げた代から年数がたち、意識の薄れを感じる。挨拶・集会・合唱・清掃という活動においてよい取組は見られるが、言葉としてのPR度が低かった。	①②とも生徒の大切な活動で、その活動をよりよく実践していく資質・能力の育成がねらいとなるので、生徒総会は本来の対面も視野に入れ、伝統の4本柱については、新たに今後どうしていくかを考える場面をつくりながら益々生徒会活動を充実させていきたい。
人権教育の充実	2・3	GOOD・STORY 人権作文	ESD教育に関連付けて教科等横断的に実践計画を立ててきた。なかなか計画は立てたものの、どこまで意識した授業、活動ができたかは十分でなかったと感じる。ただ、本校独自の生徒からされた嬉しいことをテーマとした作文については真剣に取り組む、人権を考える大きな機会となっている。	毎年そうであるが、効果的であると考えるGOOD・STORY作文についてはクラスでの発表、学年、そして全校発表まで繋がっていて非常に良い取組なので、今後も充実させていく。何事もそうであるが、取組のための取り組みにならない意識改革は必要である。
防災・健康安全教育の充実	3	①防災タイム、チリントタイムによる学習 ②避難訓練・集団下校訓練・小中学校合同引き渡し訓練	・資料を活用して毎月1回防災、交通事故を中心とした安全教育を実施し、ある程度の教育効果はあったと考える。 ・各種訓練は、生徒も真剣に取り組む、安全に対する知識と行動について概ね身についたと感じる。この訓練を通して学校外でも訓練の成果が発揮できるかが重要となる。	日常の交通安全教育・指導は年間を通して行っていく。そして必ず来ると言われている大地震に備えた訓練を多面的な設定を考えてより現実的に行っていく。できれば小中高大学と連携した訓練ができればよい。
キャリア教育の推進	1・2・3	生徒会活動の充実・職業講話・職場体験・学級活動	1年時は職業講話、2年時は職場体験を実施することにより、社会での勤労等を一時ではあるが経験をすることができ、貴重な機会と考える。学級活動でもキャリアパスポート等の活用も含めて将来の自分を考えることはできた。	キャリア教育は大きく言えば日常生活すべてが関係しているものであり、将来の自分づくりに向けて非常に大切な分野であることから、引き続き3年間系統立てて教育の推進をしていく。
生徒指導の充実	2・3	基本的生活習慣の確立 いじめ、暴力の防止 自他の尊重	学級経営を中心に基本的な生活習慣の確立はおおむねできたと考える。人権・道徳教育を絡めて自他の尊重も育ってきていると考えるが、一部いじめ的事案につながるケースはみられた。全般的には落ち着いた学校生活はできている。	生徒指導部を中心に年度初めの共通理解事項をしっかりと確認をして全教員が同一歩調で指導していけるようにする。生徒に寄り添う姿勢、保護者との良好な関係の構築に努める。

生徒支援の充実	2・3	不登校生徒への支援 不適応生徒への支援	毎年不登校生徒の減少がなかなか厳しい状況にある。しかし、支援体制づくりを目指し対応してきた数年が経ち、システムができてきたのは成果である。事実、教室に行けるようになった生徒、別室でリズムをつかむことができるようになった生徒がいて少しずつではあるが改善に繋がるケースもみられる。ステップルームの活用は効果が見られ始めている。	市教委から示された校内支援教育システムの構築を見据えて、現行の体制をより生徒にとって有意義なものとなるように推進していく。保護者、本人と課題共有をしながら教育相談を充実させていき、関係機関とも連携を図りながら状況改善に努める。
特別支援教育の充実	2・3	特別支援教育体制の確立	支援体制として、ほぼ全職員が特別支援学級の生徒とかかわりを持っているため、生徒の生活支援、学習支援等、本校の支援教育は充実していると感じる。生徒の力も伸びてきていると考える。	支援体制は引き続き、全校体制で行い、すべての教員がインクルーシブの考えを学びながら支援を実施していく。

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

本校の今年度の教育活動は年間を通して計画通りに運営することができ、授業・行事においての生徒の取組は充実していたとの評価をいただいた。また、地域との連携について、公民館行事への生徒参加、地区での厚木市一斉防災訓練、一斉清掃時にも生徒が参加したことに関しては非常に感謝され大きな評価をいただいた。本校の4グループの体制は、とてもバランスがとれていて、「日常の教育活動や地域行事等での糧、地域連携の構築」を取り上げていることに地域住民の一人として大変うれしく思うと感じていただいている。そして、近々起こるであろう地震に対する防災については、厚木北高校学校運営協議会とも連携して小・中・高・大・地域との連携を今後推進していければというご意見、交通安全から自転車乗用時のヘルメット着用についてのご意見をいただいた。不登校生徒への対応は、本校で設置しているステップルームは効果的で、今後教室に戻す発想から個の状況に応じて個別支援での居場所的な位置づけが重要になるのではというご意見もいただいた。

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

今年度は、年度当初に計画した教育活動を順調に実施することができた。感染症以前の教育活動に近い内容ではあったが、すべてを戻すわけでもなく、朝部活動の撤廃、会議の時間短縮等により教員の働きも配慮し、生徒の活動においては、進んだリモートでの集会、各種アンケートのクロムブックの活用集計等ができるようになった。次年度は課題でもある確かな学力の定着を図り、それぞれの教育活動を更に発展させるべく指導力向上と指導の積み重ねを考える。また、不登校生徒の減少も大きな課題でもあり、支援体制を改めて考えていきたい。学校関係者評価を受けて地域学校連携も更に深めていきたい。